

【 ドローンの利活用について 】令和4年10月3日（月）予算特別委員会

一 ドローンの利活用について

私は、広域分散の地域構造を有する本道において、ドローンは地域課題解決に重要な役割を果たしてくれるものと、大いに期待しています。

道は、ドローンの社会実装に向け、今年度、新たに積雪寒冷条件下におけるドローンの活用の可能性を調査・検証する事業の実施やドローン全般に関する総合窓口として、『ほっかいどうドローンワンストップ窓口』の運営、また、『ほっかいどうドローンフォーラム』の開催などに取り組んでいると承知しています。

そこで、ドローンの利活用の推進に関して、順次伺ってまいります。

(一) ほっかいどうドローンワンストップ窓口について

道では、今年度、新たに『ほっかいどうドローンワンストップ窓口』を設置し、ホームページでは情報発信していると承知していますが、窓口で行っている具体的な取組と活用状況について伺います。

(答弁：総合政策部次世代社会戦略局

デジタルトランスフォーメーション推進課長 小林靖幸)

・様々な分野で活躍が期待されるドローンについて、道では、利活用の推進、社会実装による地域課題の解決を図るため

の総合窓口として、本年4月に『ほっかいどうドローンワ
ンストップ窓口』を設置。

・窓口では、

- ① 飛行ルールや活用事例。
- ② 企業が提供する先進的なサービス。
- ③ イベントなどの情報発信。などを行っているほか、
- ④ 道内各地での飛行に関する許可申請等の手続き方法。
- ⑤ 国の規制緩和やライセンスに関する照会。

などの各種相談にも対応しており、これまで、48件の問い
合わせが寄せられている。

(一) ドローンフォーラムについて

道では、先日、札幌市内で民間との連携によりドローンフォーラムを開催して
います。このフォーラム開催の狙いと成果について、伺います。

(答弁：次世代社会戦略局

デジタルトランスフォーメーション推進課長 小林靖幸)

・道では、自治体、教育関係機関、事業者等を対象とし、民
間企業と共催で先月(R4. 8. 30)『北海道ドローンフォー

ラム 2022』を初開催。

- ・この中でドローン活用の展望に関する講演、市町村による先進事例の紹介、展示や操縦体験などを行った。
- ・フォーラムには、市町村職員のほか、民間企業や教育機関など約 180 名の方にご来場いただき、様々な場面での利活用促進に向けた機運を醸成することが出来たと考える。

(二) 関係機関等との連携について

国の規制緩和により、年内にも有人地帯の目視外飛行、いわゆるレベル 4 が実現します。道内においても物流や災害対応など様々な分野への活用が期待されますが、一方で新たに導入されるライセンス制度など、まだ詳細が明らかになっていないことも多く、不安に感じている事業者もいらっしゃると思います。

こうした状況を道としては、どのように認識し、どう対応していく考えか伺います。

(答弁：次世代社会戦略局

デジタルトランスフォーメーション推進課長 小林靖幸)

- ・本年 12 月に予定している改正航空法の施行により、有人地帯における目視外飛行、いわゆるレベル 4 が解禁。

- ・その要件としてライセンス制度が導入されるなど、制度が行われ、様々な分野での利活用の拡大が期待される一方、現時点で制度の詳細が示されていないことから、事業者などからは、どう影響するか分からないことへの不安もあると認識。
- ・この為、道では、国や関係団体と連携を強化し、情報収集に努め、ワンストップ窓口を通じて、適切かつ迅速な情報提供、きめ細かな相談対応を行ってまいります。

(三) 今後の取り組みについて

地域の活性化を図り、活力ある未来社会『北海道 Society5.0』を実現する上で、技術革新が進み、活用の場面が広がるドローンは、本道にとって大きな可能性を有していると考えます。

今後、官民の連携を一層深めながら、ドローンが本道の暮らしや産業の様々な場面で有効に活用されていくことが重要と考えますが、道では今後、ドローンの利活用に向け、どのように取り組んでいく考えなのか伺います。

(答弁：次世代社会戦略監 中村昌彦)

- ・ドローンは地域課題解決の重要なツールの一つであり、

様々な分野で活用を進めて行くことが重要。

- ・この為、先進的なサービスを展開する民間企業と市町村のマッチングによる実証事業の誘致などを進めるほか、新たに、全国団体『日本無人機運行管理コンソーシアム』へ参加し、他地域や官民の連携をさらに強化していく考え。
- ・道としては、こうした取り組みを通じ、ドローンの活用を一層推進し、道民の暮らしの安全・安心の確保、地域の活性化、産業の生産性の向上などに寄与。